

【家族構成】

父、母（コラムの筆者）、大学生（男の子）、高校生（女の子）

我が家には5歳違いの兄妹がいます。娘は知的障害があり、現在、特別支援学校に通っています。娘は生まれてから成長が遅く、不安な日々を過ごしていました。1歳を過ぎて福祉保健センターのフォローがあり、検査のために初めて訪れた病院の光景は衝撃的でした。様々な病気や障害のあるお子さんの親御さんにとって、それは当たり前で特別なことではないと、そんな風を感じられました。「もしも娘に何かあっても私もあんなお母さんのようになりたい。」私が娘を育てていく覚悟を決めた最初でした。

3歳になり、知的障害・発達遅滞の診断がつかしました。2歳をすぎた頃からは知的障害の人にはよく見られる特性のひとつで、早朝覚醒に長年悩まされました。毎朝、3時から4時には起きてしまい、私も一緒に起きないと、テーブルの上に置いてあったドーナツを壁に塗られていたことや、おむつの中の物がまかれていたこともありました。睡眠剤を処方してもらうなど、いろいろ工夫をしましたが、娘の早朝覚醒はなかなか改善できず、約10年続きました。

娘に時間も気力も使わなければならない日々の中で、息子の不満は溜まっていき、このころはよく息子から些細なことで「母ちゃん！僕に謝って！」と言われました。特にこれといって謝らなければならないことがあったわけではなかったと思いますが、不満がたくさんあったのでしょう。体力的な疲れと精神的にもいっぱい状態の状態で彼を受けとめてやれずにいました。

娘は、就学前の2年間は健常のお子さんたちに交じり、保育園に入園することができました。ありのままを認めてくれる環境の中で、楽しく充実した日々を過ごせました。他の子との差は歴然としていましたが「できないことを数えたらキリがない、他と比べるよりもこの子自身の成長を喜んでやれる親になりたい。」そう決めた保育園時代でした。

就学は、特別支援学校へ進みました。心底、入学できて良かったと思っています。小中高と12年間在籍できることも安心です。学校生活ですぐ近くに悩みを共有できる仲間がいること、情報を得やすい環境であったことにもとても感謝しています。高等部の先輩お母

さんたちに数年後に何が必要になるか少し先の未来を教えていただけることもとても勉強になりました。わが子だけでなく他の子どもたちのこともみんな大切なかけがえのない存在になっていきました。果てしなく長く感じた入学当初でしたが、あと1年で卒業となり、今は卒業後の進路について悩ましい時期となっています。

22歳になった息子は、コロナの影響で家にいる時間が増えたこと、また祖父母の死に直面したことで妹との関係性が劇的に変わりました。「自分は今まで妹の存在をないことにしてきた。妹にはこんなに多くの感情があって、こんな風に毎日を生きていると知らなかった」と口にし、関わりをもってくれるようになりました。余命いくばくなく大好きな祖母に安心してもらいたい気持ちだったのでしょう。「ばあちゃん。これから妹のことは、母ちゃんと一緒に俺も見ていくから安心してね。」と伝えていました。親がカバーしてやれない間、孫である息子に寄り添い、はげ口の無い想いを聞き、受けとめてくれていた義母の存在は本当にありがたかったです。

娘は今、17歳。知的レベルは2歳に満たない赤ちゃんですが、体つきや表情は少女から大人に変化し、よその子がまぶしく憧れの存在に見えていた私ですが、今は娘自身がまぶしく輝いて見えます。

風を受けながら気持ちよさそうに坂道を走って下る姿、マンホールのふたをひとつずつ踏んでは笑っている娘、彼女は明日を憂いたり、昨日のことをくよくよ悩んだりしません。ただ「今」を全力で生きることそれ自体を楽しんでいるように見えます。この子はすごいな。私にもっていないものをたくさんもっている。ややこしいこともたくさんあってイライラすることは日常茶飯事。けれど、娘のあれこれを見て、毎日面白いです。

二人の子どもたちには、「私をお母さんにしてくれてありがとう。」という気持ちでいっぱいです。私も娘のように自然体で、肩ひじを張らずに生きていきたいなあと思っています。

令和3年3月